

議会だより

ワットサム

※「ワットサム」とはアイヌ語でワット（にれの木）・サム（傍）という意味で、わっさむの由来です。

第110号 2023年2月3日

和寒小学校農業体験

表紙の説明
(15ページ)



- p2 議長年頭あいさつ
- p3 議会報告会 ～町民と意見を交換～
- p4 こんなことが決まりました ～議員定数9名に削減～
- p8 一般質問 4議員が登壇
- p12 所管事務調査 道外視察報告
- p16 町民インタビュー スキースポーツ少年団 ～目指せ上位入賞～



新春を迎えて

和寒町議会議長 佐々木広行

町民の皆様におかれましては、令和5年の新春をご家族お揃いでお迎えできましたことに、心からお喜びを申し上げます。

また、日頃から議員活動にご理解とご協力をいただき、議員一同、深く感謝とお礼を申し上げます。

さて、令和4年を振り返りますと、新型コロナウイルスの影響やロシアのウクライナ侵攻により、原材料やエネルギー・食料品等の価格上昇など世界規模で物価高騰と叫ばれ、国民生活や経済活動に大きな影響がありました。

更に私ども議会においても同僚議員でありました、下條美恵氏の逝去により議会活動に多大なる影響がありました。

本町を振り返りますと、基幹産業の農業は、これまでにない天候に恵まれ、順調な収穫となり、農家の皆様にとっては平年を上回る豊作の年でありました。

今年も豊作であることを願っております。

また、10月から粗大ごみ、1月から一般ごみが有料化となったほか、ストックヤード及び計量棟の建築も昨年完成し、1月から稼働しています。

今後とも、ごみの分別にご協力いただけますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの影響で中止していたイベントは、コロナ対策に万全を期し、開催が増え、コロナ前の活気が少しずつ戻ってきました。

しかし、飲食業を中心に町内の経済は未だ厳しい状況です。

今後、更なる町内経済の活性化に議員一丸となって努めてまいります。

最後に、町民の皆様にとって希望に満ちた明るい年で益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



議長 佐々木 広行
副議長 中原 浩一

総務福祉常任委員会

委員長 酒向 勤
副委員長 小野田 久美子
委員 中野 浩一
委員 石田 利美
委員 村岡 敏一

産業教育常任委員会

委員長 谷口 勝弘
副委員長 窪田 裕二
委員 中野 浩一
委員 酒向 勤
委員 池澤 哲也

議会運営委員会

委員長 石田 利美
副委員長 窪田 裕二
委員 中野 浩一
委員 酒向 勤
委員 谷口 勝弘

議会広報委員会

委員長 小野田 久美子
副委員長 谷口 勝弘
委員 窪田 裕二
委員 村岡 敏一
委員 池澤 哲也

議会選出監査委員

窪田 裕二

町民と意見を交換



10月17日～18日に、西和福原自治会館、松岡北原自治会館、町民センター、中和自治会館の4会場で、議会報告会を開催しました。

32名の参加を得て、各委員会から議会活動の報告をし、その後皆さんからご意見等を伺いました。

意見交換

Q 塩狩に駐車場ができたので、夫婦岩に行くための道路の話を進めては。

A 計画性を持ちながら進めていかないと、町民の皆さんを納得させられない。

先を見ながら、どう進めるか考えていかなければならない。

Q 自治会館に車椅子が無く、災害が起きた時に使用することができない。自治会館に車椅子を置いてほしい。

A 自治会館は避難所にもなっているため、必要だと町に要望してみよう。

Q 町の特産品であるキヤベツや南瓜が重いため、作付けを止める考

えを持つ人が増えている。

それに代わる特産品として、ホップやビール用の大麦を作るといいう話があるがどうなのか。

A ホップは、農想塾で栽培しているが、今後はどうするか分からない。

1、2年で方向性が出てくるだろう。

農家の現状は把握しているが、今の特産品に代わる物として大麦は難しい。

Q 診療所の無床化により、最期を迎える時に本町へ帰ってくる場所が無い。

芳生苑の一部を利用して、最後の緩和ケアができるようにしてほしい。

A 芳生苑の老朽化による建替えて、緩和ケアの話があった。

家族が見に来れる場所があったら良いと思うので、これからも勉強していく。

Q 現役世代は行動範囲が広いため、インフルエンザに罹ることが多い。

罹るリスクを軽減するために助成をしたらどうか。

A フクチン接種は、1回3000円で、今年は65歳以上と18歳未満、妊婦が1回1800円の助成。

働く世代には助成が無いので、今後、検討しなければならぬ。

Q 本町の一般ごみ袋の単価の考え方は。

A 愛別町に20ℓのごみを燃やしてもらうと111円掛かるので、その半分を町民に負担してもらおう計算になる。

12月 定例会

あらまし

議員定数10名→9名へ

～次期和寒町議会議員選挙より～

12月定例会（第4回定例会）は、令和4年12月15日から16日の2日間で開催しました。15日は、奥山町長の行政報告が述べられたあと、一般質問を行い4人の議員が登壇しました。

条例改正

〔和寒町議会会議条例の一部改正（ついで）〕

（全員賛成可決）

和寒町議会議員の定数を10人から9人に改め、令和5年4月告示の和寒町議会議員選挙から適用し、また、令和5年5月1日から議長も常任委員会委員になるための条例の一部改正を可決しました。

なお、この条例改正は議会活性化特別委員会の討議を経て、本定例会で報告をしています。

この内容は、7ページに記載しておりますのでご覧ください。

和寒町議会議員定数の改正経過

一般選挙時の定数

年 月	事 項
昭和62年度	議員定数 18名 から 16名
平成15年度	議員定数 16名 から 14名
平成19年度	議員定数 14名 から 10名
令和5年度	議員定数 10名 から 9名

その後、各委員会から調査報告が行われました。16日は条例の制定や改正、補正予算等の他、意見書1本が可決されました。

条例制定

〔地方公務員法等の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定（ついで）〕

（全員賛成可決）

地方公務員法等の一部改正に伴い、国家公務員に準じて職員の定年年齢については、現行の60歳を令和5年度から1歳ずつ引き上げて、最終的に65歳にする（医師は最終的な定年を70歳）などの関係条例の整備に関する条例の制定を可決しました。

〔議会の議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正（ついで）〕

（全員賛成可決）

〔和寒町特別職職員の給与に関する条例の一部改正（ついで）〕

（全員賛成可決）

〔職員の給与に関する条例の一部改正（ついで）〕

（全員賛成可決）

〔和寒町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正（ついで）〕

（全員賛成可決）

人事院勧告に準じ、給料及び手当の引き上げに関する条例の一部改正を可決しました。



芳生苑・健楽苑の

これからについて

条例改正

〔和寒町介護保険条例の一部改正について〕

（全員賛成可決）

利用者の減少による利用定員の見直しと収入の確保を図るため、健康苑のサービス種別を「通所介護」から「※地域密着型通所介護」に変更する条例の改正を可決しました。

※地域密着型通所介護

介護認定を受けた高齢者等が住み慣れた地域で生活できるように支援するサービスです。
 ・和寒町がサービス提供事業者を指定。
 ・指定した町の被保険者のみがサービスを利用。
 ・施設規模が小さいため、利用者のニーズに応えられる。

主な質疑

問 介護報酬単価の増により、利用者負担も16%増額することを利用者は許容しているのか。
 また、利用者が減ることはないか。

答 丁寧に利用者やご家族に説明し、引き続き利用していただけるよう努める。

指定管理者の指定

〔公の施設の指定管理者の指定について〕

（全員賛成可決）

令和5年4月1日から5年間、芳生苑、健楽苑の指定管理者として、和寒町社会福祉協議会を指定することを可決しました。

専決処分

〔和寒町一般会計補正予算〕

（全員賛成可決）

原油価格・物価高騰等支援事業交付金の追加支援のため、12月5日に2300万円の増額補正を承認しました。

補正予算

今回の定例会で左表の補正予算を可決しました。

（全員賛成可決）

主な質疑

問 ごみ分別の手引きは、当初12月配付となっていたが、1月に遅れたのは何故か。

答 ごみ説明会の時に、出た質問の内容を手引きに反映する作業や、ごみ分別辞典に掲載する品目を増やしたため、編集作業に時間が掛かった。



意見書

〔物価高における農畜産物の適正な価格形成と農業経営の存続に向けた需給改善対策等の強化に関する意見書〕
 提出者 中原浩一議員
 （全員賛成可決）

提出のあった意見書は可決し、詳細はQRコード又は和寒町ホームページの議会事務局をご覧ください。



（1万円未満切捨て表記）

一般会計	補正額	補正前の額	補正後の額
議会費	△173万円	議員報酬、期末手当	
総務費	△312万円	光熱水費、住民基本台帳備品、経営継続緊急支援事業交付金ほか	
民生費	71万円	会計年度任用職員報酬、雇用保険料、子ども子育て支援交付金国庫返還金ほか	
衛生費	192万円	リサイクルごみ収集処理他業務委託、生ごみ処理場管理業務委託ほか	
農林業費	160万円	会計年度任用職員報酬、各種手当、雇用保険料、経営所得安定対策直接支払推進事業交付金ほか	
商工費	△126万円	どんとこい！わっさむ夏祭り負担金	
土木費	△300万円	光熱水費、町道補修砕石代他、橋梁設計業務委託ほか	
消防費	99万円	士別地方消防事務組合負担金	
教育費	33万円	会計年度任用職員報酬、各種手当、共済費、光熱費ほか	
公債費	1324万円	償還元金、償還利子、繰上償還補償金	
国民健康保険（保険事業勘定）	791万円	5億2296万円	5億3087万円
国民健康保険（診療施設勘定）	467万円	2億4267万円	2億4735万円
簡易水道事業	50万円	1億5185万円	1億5235万円
公共下水道事業	186万円	2億808万円	2億995万円
介護保険	1万円	6億1065万円	6億1066万円

まちの未来をつくりませんか—

和寒町議会議員選挙

■立候補予定者説明会 令和5年3月22日（水）

■告示日 令和5年4月18日（火）

■投票日 令和5年4月23日（日）



立候補できる条件

日本国民で、和寒町議会議員の選挙権を持つ
満25歳以上（投票日まで）の方

供託金制度が導入されました！

供託金は、売名などの目的で無責任に立候補するのを防ぐためのもので、一定の得票数に達しなかった場合には、没収されます。

没収基準以上の結果を残した場合は、供託金が返還されます。

選挙の種類	供託金の額	供託金の没収基準
町議会議員	15万円	有効投票の総数÷議員の定数（9名）×1/10

選挙運動の公費負担限度額が変わりました！

自動車の借入れ及び燃料の供給に関する契約である場合の限度額

契約方式		改正前	改正後
一般運送契約 以外の契約	自動車の借入れ	15,800円/日	16,100円/日
	燃料の供給に関する契約	7,560円/日	7,700円/日

選挙運動用ビラの作成の公営に要する経費に係る限度額

選挙種別	改正前	改正後
町議会議員選挙（上限1,600枚）	7円51銭/枚	7円73銭/枚

選挙運動用ポスターの作成の公営に要する経費に係る限度額

改正前	改正後
$525.06円 \times \text{ポスター掲示場数} + 108,897円$ ポスター掲示場数	$541.31円 \times \text{ポスター掲示場数} + 105,723円$ ポスター掲示場数

変更はありませんが、通常葉書（はがき）の郵送料は公費負担されます。

選挙種別
町議会議員選挙（800枚まで）

- 議員報酬 170,000円～（役職により変動）
- 期末手当 4.4箇月（令和4年12月1日基準）

議会活性化特別委員会最終報告

18回目の本特別委員会
が令和4年12月1日に開
催され、議員定数を現状
の10名から9名にするこ
とに決定した。

本特別委員会は、令和
2年12月11日に芽室町と
のオンライン視察などを
行い、議会モニター制度
の導入などを検討した
が、コロナ禍にあつて十
分な研修ができないこと
を理由に断念した。

令和2年7月に議員1
名が長期入院することに
なり、議員報酬の減額を
条例に加えた。

また、同月に議員1名
が急逝したことで、8名
体制での議会運営になっ
た。

令和3年4月に補欠選
挙が行われ、新たに2名
が加わり新体制での特別
委員会になった。

令和3年後半から、議
員定数・議員報酬・委員

会構成などに議論を絞
り、下川町、秩父別町や
愛別町に視察研修を行っ
た。

令和4年10月から、定
数や委員会構成について
議員一人ひとりの意見を
出しあつた結果、一減が
最も多かった。

この4年で1期目、2
期目、3期目の3人の議
員が亡くなり、これから
の議会を支える人材を失
つたことは、議員定数を
考えるうえで影響があつ
たと思う。

常任委員会構成や議員
報酬などは、改選後も継
続的に検討することを申
し送ることになった。

産業教育委員会報告(観光資源)

塩狩峠周辺について

塩狩峠公園は、駐車場・
看板・記念碑などの設置
が完了した。

一目千本桜は、三笠
山自然公園の桜と同様
に、樹木の林齢や病気な
どで衰弱が見られること
から、今後は計画的な植
え替えなどが必要と考え
る。



夫婦岩は、自動車を通
行可能な道路を整備す
るため、令和3年度に測
量を実施、令和4年の6
月の常任委員会で計画図
が示され、各委員から次
のような意見が出され
た。

- ①道路敷設後の運用計画
や和寒町の観光計画を作
成すること
- ②夫婦岩と南丘線を良好

に接続すること。
③道路幅が狭く危険であ
るため、安全性を確保す
ること

④町民の生活に係る事業
全体を見て、優先順位が
低いこと。

以上の指摘事項から、
関係整備予算の提案は見
送られた。

今後の課題

本町の観光資源は点在
しており、各施設を結び、
町内経済が活性化するた
めの工夫が必要で、その
ためには町民と一体とな
り、観光コンセプトを作
ることが重要である。

また、キャベツやカボ
チャなどの特産品と、新
たな産業がお互いを尊重
し、本町をPRしていく
ことが理想である。

これらを踏まえて、「和
寒町観光計画」を各観光
関係団体と共に作成し、
戦略的に整備していくこ
とを強く望むものであ
る。

問 今後のふるさと納税は
答 体験型の返礼品を研究



谷口勝弘議員



問 在宅高齢者の福祉サービスは
答 令和5年3月に調査を実施

これからの取り組みは

ふるさと納税は、地場産業の発掘、自治体の目的を具体的に提案、近隣の自治体との連携、交流人口の増加など、地域活性化の一つのツールとして期待されているが、取り組みは。

奥山町長

コロナ禍で南丘キャンプ場の利用が増えていることを念頭に、エコテージなども含めた、施設利用券などのメニューの開発を研究したい。

○再質問

寄付額をもっと伸ばせないかと思うが。

奥山町長

町民の協力と意識の高さはあるが、それが寄付金の増加につながっていないのは我々の努力不足だと思う。

足元を見つめて、本町でしか経験できない返礼品を考えたい。



▲ふるさと納税に出品している和寒町産の米

○再質問
主力の返礼品は米だが。

奥山町長

米を返礼品にと言う事で、当時の担当者は相当努力した。

カントリーエレベーターでは、他の地域の米も入るので、別の方法で和寒町産の米を返礼品にできる環境を整えてきた。

○再質問

キャベツやメロンは、数に限りがあるので、主力になっている米をもっとPRできないかと思うが。

奥山町長

本町の特産品といえば、キ

ャベツやカボチャ、メロンやアスパラも人気はあるが、期間が限定されてしまう。

1年を通して大量に出せる返礼品が必要だ。

○再質問

返礼品開発にも、近隣自治体との広域連携がこれからは必要になってくると思うが。

奥山町長

例えば本町のキャベツと、道東の町の力をセッティングして返礼品にするとか、北海道枠での連携ができないかと考えている。

お互い協力しながら、知名度を上げていく環境を作ることとは大事で勉強していききたい。

○再質問

近隣の町の担当者に話を聞いたところ、生き生きした答えをくれた。

億を超える仕事をやっていることやりがいもできると思う。

職員のやりがいを作るのも町長の役目と思うが。

奥山町長

全国的にふるさと納税の信用度は高い。

職員のやりがいを普段から考えて、働きやすい環境をしっかりと守っていききたい。

高齢者のニーズの把握は

弁当宅配事業に代わるものは考えているのか。

奥山町長

令和5年3月に、介護予防・生活圏域ニーズ調査を実施することともに、結果を令和6年度以降の第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に反映する。

このほか、介護認定の更新にあわせて家族から在宅介護実態調査を行い、結果を踏まえて取り組み可能な事業を検討していききたい。



▲宅配されたお弁当

小野田久美子議員



問 生産年齢人口増加への取り組みは 答 来年度、就農に向けた支援を開始

問 医療・福祉改革で住み続けられるまちに 答 できる限り施設の自立運営を検討

生産年齢人口増加への取り組みは

本町の今年11月末人口は、3006人になり、平成24年度末（10年前）に比べ806人も減少している。

少子高齢化や生産年齢人口減少により、経済規模の縮小、労働力不足、医療・介護費の増加、財政の危機など様々な課題の深刻化が懸念される。

①生産年齢人口増加のため、次年度の取り組みは。

②本町で人材不足が懸念される介護関連やデジタル関連など、幅広く地域おこし協力隊を募集しては。

③担い手出会い交流事業は、あまり成果が上がっていないが、今後の対策は。

奥山町長

①本年度から取り組んでいる新規就農者確保・育成事業を、来年度から地域おこし協力隊で募集し、就農に向けた支援を開始するほか、新たな移住促進事業の1つとして、遊休町有地や土地付き住宅の売却に向けた取り組みを進めたい。



奥山町長
研究しないと答えられないが、幅を広げられる可能性はゼロではないと思うので、時間をいただきたい。

医療・福祉改革で安心して住み続けられるまちに

芳生苑・健康苑の令和4年度見込みの指定管理料（収入減に伴う補填）は1億2000万円、平均入所者65人。

事業内容や経営を改革しないと財政が持ちこたえられなくなるのではと危惧するが。

奥山町長

人口減少対策にも直結するので、今後も事業を継続する。

○再質問
門戸を広げた地域おこし協力隊の受け入れ体制が厳しいなら、協力隊の窓口や移住サポートを行う専門の隊員を募集しては。

本年12月12日現在、入所者57名、うち入院している方が2名だが、指定管理料1億2000万円のほか、必要に応じて法人の留保資金を充当するので、本年度の指定管理料に変更はないと考えている。

令和3年度4月以降、病院から診療所体制に移行したこ



▲千葉県成田市の特養の外国人職員

とに伴い、休日夜間の診察ができないので、町内の施設で看取りまで行うターミナルケアの実施は難しい。

町立診療所と委託契約により、非常勤の嘱託医として毎週水曜日及び木曜日の午後に入所者の回診を実施しており、介護保険法の人員基準に定める医師の主たる業務として、介護報酬の基本サービス費に含まれている。

今後、施設利用者の推移や介護従事者の確保、在宅福祉サービスの充実などを勘案し、できる限り施設が自立して運営できるよう複合的な機能も検討していく必要があると考えている。

問 第6次和寒町総合計画の推進は

答 町の将来に係る政策は議会と相談



石田利美議員



第6次総合計画の推進は

令和3年度から、これからのまちづくりの計画として、第6次総合計画が前期4年・後期4年としてスタートした。

前期2年間の実績と令和5年と令和6年の考え方は。

奥山町長

令和3年第1回定例会において議決し、令和3年度から8年間の計画としてスタートし、現在2年目となっている。1年目・2年目の基本構想を7つの分野で答える。

分野1の生活環境では、若草団地に公営住宅一棟と、若草集会所の建設、長寿命化対策による下水終末処理場の設備改修、リサイクルセンターストックヤードの建設。

分野2の産業振興では、中山間地域等直接支払事業や多面的機能支払交付金、町有林整備事業、中小企業基盤強化促進の取り組み、観光では三笠山自然公園、東山スキー場指定管理事業の継続。

分野3の社会福祉では、子

育て支援とわつさむ健やか子ども医療費助成事業の拡充、救急外来受診時交通費助成事業、芳生苑・健康苑指定管理事業の実施。

分野4の保健医療では、健康医療相談事業健康あんしんダイヤル24、町立病院を無床診療所に変更。

分野5の基盤整備では、水道事業の公営企業会計移行事業や除雪ロータリ車の更新、町営バス運行事業などを実施。

分野6の教育文化では、小中学校に外国語指導助手を配置する国際理解教育事業や、体育施設等指定管理事業の実施、スキー場の圧雪車の更新、リフト設備の更新。



▲リサイクルセンターストックヤード



▲和寒町立診療所

分野7の行財政では、戸籍電算システム機器更新事業や、自治会活動推進交付金事業、和寒ふるさとギフト事業などを実施した。

町政の執行にあたり、少子高齢化や人口減少への対応と、福祉の向上や産業の進展を図り、まち・ひと・しごと創生総合戦略と第6次総合計画に基づく事業に取り組み、町民に丁寧の説明を進めていく。

○再質問

診療所は昭和50年に改築され、47年が経過している。

令和4年度から、新しい副院長が着任し、医師の定年制も変更され、これから30年近く、和寒町で頑張っていただ

きたいので、診療所の建替えが必要と考える。

医師住宅跡地に診療所を新築し、診療所跡地に芳生苑と保養センターを建設しては。

奥山町長

今後の全体的な福祉サービスの量や、今後の受診状況を勘案し、今後、基本計画に建替えを入れる時期が来ると思う。

○要望

下川町で町長の交通費が余計に出されていたと言ったことがあった。

奥山町長も札幌に帰ることが多いと思う。

1回しっかりと調べていただきたいと思う。

窪田裕二議員



問 特養施設建替えの考え方は

答 危険な場所は避ける。施設は必要不可欠！

施設建替えの場所は

ここ数年、特養施設の老朽化に伴う建替えや運営方法など、議会と共に議論してきた。

奥山町長も二期目の公約では、建替えも挙げているが、近年の大雨などを踏まえ、現在の場所は避けるべきと考え

るが、
①場所の選定は、慎重に行う必要があるが、どのように考えているのか。

②建替えにおける現在の進捗状況は。

③令和5年度予算計上予定事業では、1億6500万円の指定管理料を見込んでいる。町として指定管理料をどのように考えているか。

奥山町長

①平成30年度に「高齢者福祉施設整備構想調査」を実施した。

この調査では、町有地である旧青少年会館跡地と旧グートボール場を立地場所と仮定して、当時60床の福祉施設を想定して行った。その結果、一体的に整備し

た場合、延床面積5000㎡程度、敷地面積10000㎡以上が必要。

また、隣接する公営住宅の解体や旧会館と旧グートボール場の高低差が1m程あるため、建設費もかさお結果となった。

今後、高齢者施設以外の機能も複合的に検討していく場合、内容によっては用地の面積にも大きく影響することから慎重に議論が必要と考え

る。
②現在施設の指定管理者である社会福祉協議会に対して、本町の高齢者総合福祉施策を示し、新たな施設の整備や事業運営などについて協議を重ねている。

③本町として、特別養護老人ホームの機能は必要なことから、今後とも収支の損失による財政的な支援は必要不可欠と考え

○再質問

現在の場所は、河川も近いことから危険な場所（レッドゾーン）として認識しているのか。



▲芳生苑・健楽苑周辺

辻副町長

実際の地域では、福祉施設だけではなく、一般町民も住んでいる。

また、公営住宅や集会所も整備していることから、決してレッドゾーンという認識を想定していない。

○再質問

今後、1億6000万円をピークとしてその後、同額程度を推移していけるのか。また、その要素は何があるのか。

辻副町長

人件費や職員数を見直していく。

また、1億数千万円の指定管理料の考え方は、福祉事業として4億円の事業でもある。

町の中でも経済効果として動いていると考えなければならぬ。

奥山町長

議会や町民の皆様も理解していただきたいのは、和寒町に施設は必要ではないのか。絶対必要だと私は思っている。

○再質問

今の場所は、避けるべきでは。

奥山町長

ハザードマップの話もあるが、安全な所でないならばないと誰でも思うでしょうから、頭に置きながら意見交換させていただく。

所管事務調査 道外視察報告

視察研修 令和4年11月9日～12日



医療及び福祉施設等調査特別委員会

11月9日
国土交通省・厚生労働省

厚生労働省からは、老朽化が進んでいることから、建替えて有利な補助金制度があるかどうか、参議院会館にて、厚生労働省と国土交通省の担当より説明を受けました。

厚生労働省からは、地域医療介護総合確保基金（道の基金）を活用した介護設備等の建替え事業と、例外的に災害レッドゾーンに立地し、老朽化した定員30人以上の施設の移転建替えを、国直轄基金を活用し申請ができることを学びました。

国土交通省の都市構造再編集中支援事業等は、条件はありますが、不特定多数のデイサービスや小規模多機能などの施設が対象となり、また、児童施設や道路・公園のインフラ、防災施設なども、工



▲参議院会館での研修

リア内にコンパクト化した都市計画を作成することで、事業の支援を受けられる、使い勝手の良い補助事業です。

毎年700億円の予算を3年～5年の年次計画に従い要望を受け、予算範囲内で全国に分配する事業ですが、都市再編整備計画の作成や採択などに時間を要することになるので、本町でも条件に合うかなど検討が望ましいです。

11月11日
社会福祉法人福祉薬団

「社会福祉法人福祉薬団」（飯田大輔理事長）は、7月と9月の研修で講師を受けた「社会福祉法人ゆうゆう」の大原理事長のご紹介を頂き、視察先と致しました。

特養施設やショートステイ、訪問介護、居宅介護支援、学習支援、企業主導型保育事業、就労支援などの機能を持った7箇所の福祉施設を経営し、障害者支援と農福連携で養豚経営やレストラン（恋する豚研究所）なども運営しています。

法人経営は、約37億円の事業規模で、従業員は約500人。
新たなプロジェクトとして、児童養護施設を千葉県に採択されて整備を進めています。



▲農福連携事業でのサツマイモ選果

事務効率化では、ICTを活用して労務管理や経理管理を実施し、事務経費の削減に努められていました。

また、医療依存の高い方（糖尿病、胃ろう、B型・C型肝炎、がんなど）の入所希望者を断らない経営をされ、医師、看護師、介護福祉士の協力と理解、家族の承認のもとに、看取りまで行うターミナルケアを実施してまいりました。

今後の芳生苑・健康苑の運営は、再度、今年4月から5年間の指定管理者として、和寒町社会福祉協議会で行うことにな

ります。

平成28年度の特養利用者が、要介護3以上へ条件引き上げになり、度重なる介護報酬改定などで運営が厳しくなっています。

年々指定管理料も増加し、令和3年度では1億600万円を一般会計から繰入れしました。

今回の視察を通じて、今後本町の福祉施設のあり方を考えた時に、総合的な福祉施設エリアとして、利用者のニーズ・サービスに対応しうる施設の整備が不可欠です。

また、本町の地の利や潜在力を活かし事業の創出を併せて、運営なども視野に入れた複合経営も求められるのではないかと感じました。

その役割を担う経営理念に精通した福祉法人を見いだし、育てなければならぬと思います。

産業教育常任委員会 「都市交流施設道の駅保田小学校」視察

11月10日、千葉県鋸南町を全議員で視察、研鑽を積みましました。

鋸南町は、令和4年11月時点で人口7006人、高齢化率45%で千葉県のワースト2位です。

小学校を統廃合することになり、地域の元気を回復するため、町民と行政が一体となった検討委員会を設立し、「都市交流施設道の駅保田小学校」を建設することになりました。

建設案は町民に公開のプロポーザル方式で行われ、大学のジョイントベンチャーが選ばれました。

これからの道の駅の生き残り方として、何かに特化しなくては、特徴のないシヨッピングセンターと同じものになるという危機感から、廃校舎の再利用を最大限に生かした、学校特化型の施設になり、道の駅の行事は全て学校にならったものに



▲道の駅保田小学校での研修

なっています。

道の駅の運営は、設計者・運営事業者・町行政そして町民が密接にかかわりあって行っていくことが重要で、任せきりでは機能しないものになります。

観光事業にかかわらず、町のコンセプトやこれからの町の未来など、町行政と町民が共有していかなければ、持続可能な自治体になるには難しいと感じました。



医療及び福祉施設等調査特別委員会



▲増毛町立明和園

11月21日、特別養護老人ホーム等の建替えと現地調査のために、増毛町を全議員で視察しました。

増毛町立明和園は、養護老人ホームと特別養護老人ホームがあり、近隣市町に多くの介護事業所ができたことや入所者の減少、近年の介護職員不足、老朽化などから、現施設から利用者数を縮小して、施設（併設）建替えを実施されました。

両施設の建替えにあたり、町議会議員や理事者、職員による「明和園懇話会」を立ち上げ、検討した結果、定員は特養40名、養護30名で2階建て（1階特養、2階養護、エレベーター付き）とし、工事費用の総額は約27億円。

福祉避難所に指定されているため、避難スペースの確保（約100人分）や自家発電装置が設置されています。

経営は、増毛町が管理・運営していますが、社会福祉協議会へ移管する方向で協議しています。

コロナ感染対策用に陰圧室1室、養護の入所者が使用可能な洗濯機、理容室、仏間・交流コーナーがあり、湯船にはたくさん手すりがあり、運動技能を高めるための工夫がされていました。

産業教育常任委員会中学校訪問報告

11月17日、産業教育常任委員及び議員全員で中学校へ訪問しました。

校長先生から学校の経営方針や、ICTの活用状況の説明を受けた後、教育委員と議員からの質問などの後、それぞれ2班に分かれて体育・英語・社会科の授業参観を45分ほどで行いました。

英語は英作文を作る授業で、生徒たちにタブレットが活用され、ICT教育の推進状況を視察することができました。

社会科は公民教科で、経済の最小単位や、経済を支える信用などの授業が行われていました。

体育では、元気に運動する生徒たちの姿を見ることができました。

給食は、米飯の他、大根・人参・豆腐の味噌汁、肉野菜炒め、かぼちゃのグラタン、牛乳で、暖かいまま食べるのができ

ました。

これまで学校訪問は、4年の任期中1回程度でしたが、教育委員会・教育委員の協力もあって、昨年の小学校に続けて、今年は中学校に訪問することができました。

時代の流れが速いICT教育を逐一知ることに、今後の委員会活動に活かしたいので、来期も引き継いでもらいたいと思います。



▲中学校の給食を試食するようす

閲覧統計

令和4年9月定例会

一般質問	4人
総再生回数	123回
総再生時間	15.7時間

町民に開かれた議会を目指し、議会からの情報発信、情報公開等を積極的に行うため、一般質問の動画を配信しています。

和寒町議会ホームページから閲覧することができます。

<https://www.town.wassamu.hokkaido.jp/>
お問合せ：gikai@town.wassamu.lg.jp

議会動画





議会報告会のお知らせ



～今年是和寒町議会議員選挙のため3月に開催～

3月26日（日） 午後1時30分から
町民センター 3階 大集会室

今回の開催は、上記のみで開催します。
 各委員会からの報告の後、ご意見、ご要望をお伺いします。
 町民みなさまのご参加をお待ちしています。

10月26日に、旭川市公会堂にて上川管内町村議会議員研修会が開催され、株式会社日本総研研究所調査部主席研究員 藻谷浩介氏による「道北は「コロナ禍をチャンスにできるか」と、東北大学 災害科学国際研究所助教 定池祐季氏による「北海道の防災教育、被災者支援の充実に向けて」の講演を拝聴しました。



上川管内町村議会
議員研修会



表紙の説明

「和寒小学校
農業体験」

今回の表紙は、1月23日に活性化センターで、小学3年生15名が総合学習の一環として、キャベツ掘体験学習を行った様子です。
 澄み渡った青空の下、小学生自身が7月に苗植えたキャベツが、どこまで大きくなっているのか想像を膨らませながらの雪かき作業。



雪の中から顔を出すキャベツに大きな歓声が上がっていました。
 「でかい、でかい」
 「すっぱー甘いぜ」
 「食べてばかりいないで働けー」
 共に作業をしていた農協青年部員も、日頃使うことが少ないスコップでの掘り出しで頭から湯気が上がっていました。



12月24日、スキースポーツ少年団（クロスカントリー）の皆さんに団の活動などについて、お話を伺いました。

スキースポーツ少年団の発足と団員数は

発足は昭和50年、監督兼コーチは渡辺道太郎さん他コーチ5名、現在団員は13名で、冬期間は中学生5名と活動を共にしています。

団の活動は

夏は週1回、ランニングや筋トレ、バスケットやラグビーなど色々なスポーツを楽しみながら、体力づくりを行っています。冬は月曜日以外、毎日クロスカントリーコースで練習をしています。

団の目標は

各大会での上位入賞をめざしています。5・6年生と中学生は、毎年3月に開催される全日本ジュニアオリンピックでの上位入賞を目標にしています。

昨年は、名寄市で開催された同大会で6年生の和久玄さんが、小学校男子クラシカル部、フリーの部両種目において優勝し、2冠を達成すると

いう素晴らしい結果を納めました。



次の大会など

1月28日に全道ジュニアクロスカントリー和寒大会が、東山スキー場で開催されます。

その大会は、全日本ジュニアオリンピックの予選となり、種目ごと上位10名が全日本の大会に出場できます。

団員皆さんに聞きました

練習はどうですか？

特に土日の練習は、1周3キロのコースを何周も走るので体力的にはきつけれど、少しでもタイ

ムが縮まるよう毎日頑張っています。

今後チャレンジしたいことは？

1月の和寒大会で上位入賞して、3月の全日本ジュニアオリンピックに出場したいです。

指導者に聞きました

町への要望は？

スキー場の圧雪車が更新され、コース整備などの環境も大変充実しています。

今後同様に練習環境の整備を維持していただきたいです。



広報委員の一言

新年あけましておめでとうございます。サッカーワールドカップも36年ぶりで、メッシが率いるアルゼンチンが優勝、日本もベスト16に進出して国民も盛り上がりを見せました。

昨年の一文字を表す漢字として「戦」が選ばれた。

2月に始まったウクライナとロシア問題で、国民の誰もが影響を受けたことを1文字で表されたと感じる。

地球温暖化や環境破壊も人間が影響しているが、戦争も人間が始めたこと、何か歯車が狂い始めているのかとも感じるが、それもまた人間次第だ。

今年は、うさぎ年だが顔を見ると心が和む。

笑顔や笑い声が身近に感じられる平和な日々が送れる事を切に願うばかりだ。

(裕二)